

シンポジウム3 (産業看護職部会シンポジウム)

S3-2

働く人の両立支援について～EAPの立場から

○市川 佳居^{1,2}

1) レジリエ研究所(株), 2) (一社) 国際EAP協会 日本支部

EAPはメンタルヘルスというイメージが強いが、本来、従業員が抱える個人的な問題解決を支援するのが目的であり、病気を抱えている従業員に対しても支援を提供する。本発表では、EAPが両立支援ではどのような支援を提供するのか、具体的に解説をしたい。

1. EAPのコア・テクノロジーと両立支援

EAPの定義であるEAPのコア・テクノロジーによると、「EAPは…(中略)従業員であるクライアントの個人的な問題の整理や解決を援助します。個人的な問題は、健康(ウェルネス)、メンタル、家族、(中略)、感情、ストレス、など仕事の結果に影響を及ぼしうる様々な問題を意味します」とある(下線著者)。

また、EAPは「個人的な問題により業務遂行に支障がでそうな従業員に対して、(中略)アセスメントサービスを実施する」とある。病気にかかると、症状や薬の副作用のために、仕事に集中できない、通院で仕事が中断されるなど、業務に影響がでる。それを最小限にするために、EAPはクライアントのニーズによって支援を提供する。例えば、抗がん剤治療で通院する場合、副作用の程度にもよるが、勤務が可能な状態なら、在宅勤務をすることによって、通勤による身体的負担を減らし、治療に必要な体力をセーブするように提案する。

2. 両立支援におけるカウンセリング手法

1) エコロジカル・アプローチ: エコロジカル・アプローチはソーシャル・ワークの中心的援助概念であり、個人と個人を取り巻く環境の相互作用を活用しながら支援を行うことである。

2) レジリエンス・コーチング: レジリエンスは、しなやかな心という意味で、挫折、困難な状況、トラウマなどを経験した後に、元の状態まで回復し、その経験を糧として、一層人間として成長する力のことである。

上記に加え、3) マインドフルネス瞑想法、4) 自助グループ、5) アニマル・セラピー(AAT)等についてもご紹介し、両立支援に有用な手法について意見交換をしたい。